

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4150780015		
法人名	社会医療法人祐愛会		
事業所名	グループホームゆうあい		
所在地	佐賀県鹿島市大字高津原2962-1		
自己評価作成日	令和6年2月 21 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年3月8日	外部評価確定日	令和6年4月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>法人基本方針にある「Aging in Place」住み慣れた地域で自分らしく最後まで実現を目指し、入居者が自由に、その人らしい生活が続けられるよう一人ひとりの笑顔を大切に支援しています。最期の看取りまで積極的に取り組んでいます。又、スタッフの負担が少しでも軽減できるようDX推進にも取り組んでいます。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「森の中に生活の場があるように」と設立されたゆうあいビレッジには、グループホームだけでなく、デイケアや介護老人保健施設、特定施設、小規模サテライトなど、様々な介護保険サービスが利用できるようになっており、敷地内でイベントを行う際には、地域、家族、利用者の交流の機会となっている。コロナ禍で中止していたイベントなども徐々に再開し、地域に開かれた施設でありたいと考えられている。また、自然いっぱいの広大な敷地内には公園があり花壇に咲く花を見ながら散歩もできるようになっている。</p> <p>グループホームの母体である織田病院が協力医であることもあり、24時間、365日、いつでも電話で相談ができる体制が整っている。病院も車で5分と近いため必要な時は受診もでき、負担も少ない。各グループホームには看護職員の配置もあり、医療との連携は利用者だけでなく、家族の安心にも繋がっている。</p> <p>利用者の睡眠状況を測れる介護機器やAIで健康管理ができる介護ソフトの導入なども行っており、利用者、職員共に安心や負担軽減に繋がる取り組みを積極的に行っている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	実施状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やリビングなどにケア理念を掲示しいつでも目に入るようにしている。現在、コロナ禍にて、地域の方との交流ができておらず、新型コロナウイルス感染症が終息したら実践していく。	玄関やリビングなどにケア理念を掲示しいつでも目に入るようにしている。現在、コロナ禍にて、地域の方との交流ができておらず、新型コロナウイルス感染症が終息したら実践していく。	法人の理念とは別に取り組みやすい、グループホームの理念を作っており、玄関に掲示している。職員一人一人に周知をし、年2回ある個人面談でも確認をしている。カンファレンスの場で職員と利用者のケアについて話をする際には、理念に基づいた振り返りを行っており、理念を共有できるよう働きかけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の区長や民生委員に参加してもらっている。以前は、近隣地域のお祭り参加や地域の消防団との防災訓練での交流など行ったり、ゆうあいフェアや秋祭りなどを開始し家族や地域の方と交流する機会を設けていたが、現在は新型コロナウイルス感染対策のため実施できていない。	運営推進会議に地域の区長や民生委員に参加してもらっている。以前は、近隣地域のお祭り参加や地域の消防団との防災訓練での交流など行ったり、ゆうあいフェアや秋祭りなどを開始し家族や地域の方と交流する機会を設けていたが、現在は新型コロナウイルス感染対策のため実施できていない。	以前は地域の行事に参加したり、小学校や保育園に出向き交流の機会もあった。コロナ禍で交流は一時途絶えてしまったが、少しずつ地域とのつながりを戻している途中である。春に行う、ゆうあい桜フェアでは、キッチンカーやバンド演奏なども行い地域の方も参加されている。また、地域の清掃活動などに参加することで地域とのつながりもでき感謝されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で地区の代表者については理解を求めており、認知症サポーター養成講座を開催するなどして、少しずつ地域の方に向けた活動ができていたが、新型コロナウイルス感染対策のため実施できていない。	運営推進会議の中で地区の代表者については理解を求めており、認知症サポーター養成講座を開催するなどして、少しずつ地域の方に向けた活動ができていたが、新型コロナウイルス感染対策のため実施できていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事や取り組みを報告し、頂いた意見を検討し実践している。現在は、新型コロナウイルス感染対策のため、紙面で各委員へ報告し、内容を確認してもらい質問や意見があれば連絡をもらうようにしている。	ホームでの行事や取り組みを報告し、頂いた意見を検討し実践している。現在は、新型コロナウイルス感染対策のため、紙面で各委員へ報告し、内容を確認してもらい質問や意見があれば連絡をもらうようにしている。	今年度は、コロナウイルスやインフルエンザの感染状況を踏まえ、書面と対面とで実施している。会議資料はパワーポイントを使用し、写真を多く取り入れた報告を行っている。委員からは、同敷地内にある他施設の利用などについて尋ねられたり、地域の行事などのお誘いを受ける事もある。対面で会議を行う事で、意見交換や施設のサービスを詳しく知ってもらう機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催のお知らせや報告書を直接市の職員に手渡しに行き、顔を合わせる機会を持っている。	運営推進会議開催のお知らせや報告書を直接市の職員に手渡しに行き、顔を合わせる機会を持っている。	運営推進会議のメンバーで、顔見知りということもあり、情報交換もできている。定期的に法人の代表が市に出向き、情報をもらう事もある。市からは、グループホームの空き状況などを尋ねられる事もあり、協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会へ出席し、定期的に勉強会を行い、身体拘束廃止マニュアルに沿って身体拘束ゼロに取り組んでいる。 玄関の施錠はしていない。	身体拘束廃止委員会へ出席し、定期的に勉強会を行い、身体拘束廃止マニュアルに沿って身体拘束ゼロに取り組んでいる。 玄関の施錠はしていない。	同敷地内の施設の代表者で月に1回身体拘束廃止委員会を開き、内容を職員に周知している。法人内では、センサーマットや離床センサーなども身体拘束と考え、ゼロを目指して取り組んでいる。同様にスピーチロックについて啓発することで、気になる声かけは注意しあい、少しずつ効果が出ている。法人で動画研修を利用しており、職員一人一人が研修を受け、進捗状況も確認することで意識づけもできている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会を定期的におこない、マニュアルに沿って高齢者虐待防止に努めている。 スピーチロックゼロの取り組みを法人全体で取り組んでいる。	高齢者虐待防止についての研修会を定期的におこない、マニュアルに沿って高齢者虐待防止に努めている。 スピーチロックゼロの取り組みを法人全体で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。必要があれば家族へ情報提供を行い活用できている。	勉強会を実施している。必要があれば家族へ情報提供を行い活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に添って説明を十分に行い、疑問点を尋ね、理解を得るようにしている。	書面に添って説明を十分に行い、疑問点を尋ね、理解を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やサービス担当者会議などの際に、家族の意見や不満などをゆっくり聴ける機会を設けている。玄関に意見箱を設置している。	面会時やサービス担当者会議などの際に、家族の意見や不満などをゆっくり聴ける機会を設けている。玄関に意見箱を設置している。	面会や電話で話す機会に、家族の意見は聞いている。「運動をもっと取り入れてほしい」という要望があった時は、タブレットで掃除や活動などの様子を動画に撮り、家族に見てもらう事で安心に繋げた。マッサージ機を各グループホームに取り入れ、血行促進やリラクゼーションに取り組んでいる。意見を真摯に受け止め、運営に反映させようとする姿勢が見られる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、相談会を開催しており意見交換している。また、個人面談の機会を設け意見を聴いている。	毎月、相談会を開催しており意見交換している。また、個人面談の機会を設け意見を聴いている。	毎月1回職員同士で相談会という名の会議を行っており、利用者のケアだけでなく、設備の事や勤務体制などの問題を吸い上げ、上司に報告をしている。それ以外にも、年2回の面談を行っており、そこで意見があるか確認をしているが、日常的にも相談は受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革により残業を減らし有休休暇取得日数が増えている。半期毎に個人目標を設定し努力を評価し、就業内容などを総合的に評価している。	働き方改革により残業を減らし有休休暇取得日数が増えている。半期毎に個人目標を設定し努力を評価し、就業内容などを総合的に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数により法人内コース研修を実施したり、全職員対象の研修会を行ったり、法人外研修への参加を促し内容によっては研修費の補助を行い学習への参加を促している。	経験年数により法人内コース研修を実施したり、全職員対象の研修会を行ったり、法人外研修への参加を促し内容によっては研修費の補助を行い学習への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会に参加し、情報交換や研修会をおこなっている。	地域のグループホーム交流会に参加し、情報交換や研修会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より事前に訪問したり見学に来てもらうなどしたり、入居後も情報を元に深く関わり、表情などに気を配り入居者の事をより理解できるよう努めている。	入居前より事前に訪問したり見学に来てもらうなどしたり、入居後も情報を元に深く関わり、表情などに気を配り入居者の事をより理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や不安を十分に聞く機会をもち、気持ちに寄り添えるよう努力をしている。	家族の苦労や不安を十分に聞く機会をもち、気持ちに寄り添えるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話す機会を十分に設け、求めに応じ安心して暮らせる事を伝え、受け止める努力をしている。 必要があれば他のサービス事業所へ相談も行う。	話す機会を十分に設け、求めに応じ安心して暮らせる事を伝え、受け止める努力をしている。 必要があれば他のサービス事業所へ相談も行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、趣味活動など生活を共に過ごし、できるだけ寄り添えるように努力している。	掃除、洗濯、調理、趣味活動など生活を共に過ごし、できるだけ寄り添えるように努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月々の行事予定をご案内したり日々の様子を写真と共にお伝えしたり、誕生日を一緒にお祝いしたり家族にも行事に参加してもらするなど家族とともに支援していけるようにしているが、新型コロナウイルス感染対策のため、写真などでの実施報告が中心である。面会はガラス越しやリモートなど工夫して行っている。	月々の行事予定をご案内したり日々の様子を写真と共にお伝えしたり、誕生日を一緒にお祝いしたり家族にも行事に参加してもらするなど家族とともに支援していけるようにしているが、新型コロナウイルス感染対策のため、写真などでの実施報告が中心である。面会はガラス越しやリモートなど工夫して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族にも日々の活動の様子を写真付きで送付したり、面会に来ていただいた時はゆっくり過ごしていただくように配慮したり、積極的に訪問したりしていたが、新型コロナ感染者数の状況に応じて制限がある。面会は実施している。家族との関係性が途切れないようには支援している。	遠方の家族にも日々の活動の様子を写真付きで送付したり、面会に来ていただいた時はゆっくり過ごしていただくように配慮したり、積極的に訪問したりしていたが、新型コロナ感染者数の状況に応じて制限がある。面会は実施している。家族との関係性が途切れないようには支援している。	コロナ禍で、馴染みの人との関係は途切れてしまったが、少しずつ以前のような関係を戻しているところである。面会も月に1回程度はあり、家族へは広報誌や電話で生活状況を伝えている。自宅への外出も、飲食がなければ、送迎や移乗などの支援を行い、介護度にこだわらず希望があれば支援していきたいという思いを持っている。看取りの利用者への面会は居室まで案内をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士同じテーブルにしたり、作業や活動をテーブルを囲んで出来るよう支援し、孤立する方がいないよう支援しているが新型コロナ感染対策のため十分な実施ができていない。	気の合う方同士同じテーブルにしたり、作業や活動をテーブルを囲んで出来るよう支援し、孤立する方がいないよう支援しているが新型コロナ感染対策のため十分な実施ができていない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ敷地内の老健への入所の場合新型コロナ感染者数の状況に応じて面会や訪問したりしている。	同じ敷地内の老健への入所の場合新型コロナ感染者数の状況に応じて面会や訪問したりしている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での会話や行動、以前の生活歴より本人の思いを把握して、支援できるよう努力している。	日々の生活の中での会話や行動、以前の生活歴より本人の思いを把握して、支援できるよう努力している。	利用者でありあまり思いや意向を言われる事はないが、家族からは面会の時に聞いたり、以前の生活の様子を尋ねたりしている。食事なども食べたい物を聞き、家族に協力をしてもらう事もある。利用者が重度で入居時に意向を尋ねる事が困難な場合は、以前のサービス関係者や家族から好みや嫌いな物、生活の様子など尋ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に一人ひとりの生活史や生活歴を作成し、家族の面会時に尋ねたり、日々の会話を行う事でその時の様子をより詳しく知るよう努めている。	入居前に一人ひとりの生活史や生活歴を作成し、家族の面会時に尋ねたり、日々の会話を行う事でその時の様子をより詳しく知るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回は、計画作成者がアセスメントを行い、その後はカンファレンスなど通して、本人の状況を全体で把握できるよう努めている。	初回は、計画作成者がアセスメントを行い、その後はカンファレンスなど通して、本人の状況を全体で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンス、担当者会議を行い、それぞれの意見をもとに介護計画を作成している。又、毎月、担当者によるモニタリングを行い、短期目標が切れる時には、計画作成者が総合的に評価を行っている。	定期的なケアカンファレンス、担当者会議を行い、それぞれの意見をもとに介護計画を作成している。又、毎月、担当者によるモニタリングを行い、短期目標が切れる時には、計画作成者が総合的に評価を行っている。	ケアプランの見直しは3か月、半年、状態変化時に行っている。担当者会議では利用者・家族・ケアマネジャー・職員・管理者で行うが、家族が参加できない場合は後で伝える事もある。意向や要望だけでなく、ケアプランの内容も必ず意見を聞いている。各グループホームには看護職も配置されており、医師の意見も往診時に聞くなどし、多職種で現状に即したケアプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた日々の記録が出来ており、ケアの実践、見直しに活かしている。	ケアプランに基づいた日々の記録が出来ており、ケアの実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所へのレクリエーション参加、出張散髪の利用、自宅への外出などをおこなっているが新型コロナウイルス感染者数の状況を見ながらコロナ禍前の状況に近づけている。	他事業所へのレクリエーション参加、出張散髪の利用、自宅への外出などをおこなっているが新型コロナウイルス感染者数の状況を見ながらコロナ禍前の状況に近づけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の祭りに行ったり、ホームのイベントに高校生やボランティアに来てもらったりしていたが、新型コロナウイルス感染者数の状況を見ながら、神輿訪問に参加したり老人保健施設のボランティアレクリエーション活動に参加したりしてコロナ禍前の状況に近づけている。	地元の祭りに行ったり、ホームのイベントに高校生やボランティアに来てもらったりしていたが、新型コロナウイルス感染者数の状況を見ながら、神輿訪問に参加したり老人保健施設のボランティアレクリエーション活動に参加したりしてコロナ禍前の状況に近づけている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居前からの専門医への受診の継 続や必要時は本人、家族の希望に 添って適切な医療が受けられるよう 配慮している。 月に2回訪問診療があり、医師との 情報交換はできている。	入居前からの専門医への受診の継 続や必要時は本人、家族の希望に 添って適切な医療が受けられるよう 配慮している。 月に2回訪問診療があり、医師との 情報交換はできている。	法人の母体が病院であり、2週間に 1回の往診がある為、利用者、家族 共に協力医に依頼している。ただ、 希望があれば、今までのかかりつけ 医に診てもらふ事も可能である。専 門医の受診で家族の対応が難しい 時は職員で対応している。各グルー プホーム内に看護職がおり、夜間の 当番を決めているため、何かあつて もすぐに尋ねる事ができる体制は心 強い。また、AIで健康管理ができる ソフトも導入しており、利用者・職員 の安心にもつながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよう に支援している	看護職員を常勤配置している。日常 の身体的変化を相談し、看護師は 主治医へと報告、相談している。	看護職員を常勤配置している。日常 の身体的変化を相談し、看護師は 主治医へと報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行ってい る。	医療機関との情報交換を行い、家 族とも相談しながら適切な期間で退 院できるように努めている。	医療機関との情報交換を行い、家 族とも相談しながら適切な期間で退 院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所ですることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、当事業所の「重度化し た場合における対応に係る指針及び 看取りに関する指針」を説明して いる。又、その都度、本人や家族、 主治医と相談しながら方針を決め、 共有し支援に取り組んでいる。	入居時には、当事業所の「重度化し た場合における対応に係る指針及び 看取りに関する指針」を説明して いる。又、その都度、本人や家族、 主治医と相談しながら方針を決め、 共有し支援に取り組んでいる。	グループホーム内での看取りの経 験もあり、経験豊富な職員も多い。 重度化や看取りの説明は入居時に 行うが、入居後は利用者の状態を 見て、面会時などに家族の意向を 尋ねるようにしている。その時が来 れば、主治医と家族が直接話し、 決めてもらうようにしている。グルー プホームでは看護職の配置をしてお り、点滴や経管栄養などの対応もで きる。職員の精神的負担を軽減する ため、看取り後の振り返りの機会も 作っている。	



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練が出来ていないため、今後勉強会の計画、実施が必要。状態を把握し常に看護師とは連携を取り、報告は行っている。	定期的な訓練が出来ていないため、今後勉強会の計画、実施が必要。状態を把握し常に看護師とは連携を取り、報告は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練と風水害訓練は地元消防団・消防署の協力により、定期的に行っていたが、現在は、新型コロナウイルス感染対策のため実施できていない。地震についても訓練が必要。	火災訓練と風水害訓練は地元消防団・消防署の協力により、定期的に行っていたが、現在は、新型コロナウイルス感染対策のため実施できていない。地震についても訓練が必要。	火災訓練は年に2回と風水害の訓練も行っているが来年度は今以上に確実に訓練をしていきたいと考えている。大雨や地震があると、裏の山より土石流が起こる可能性があり、グループホームそれぞれに避難場所を確保している。備蓄品は同敷地内の施設に準備されている。非常食などの問題はあるが、地域の避難所としても少しずつ準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を踏まえ、入浴や排泄の時などプライバシーに配慮して言葉かけする時は近くに行って話しかけるよう心がけている。一人一人に沿った言葉かけや援助を行っている。	個人の人格を踏まえ、入浴や排泄の時などプライバシーに配慮して言葉かけする時は近くに行って話しかけるよう心がけている。一人一人に沿った言葉かけや援助を行っている。	プライバシーに配慮し、ドアを開けっ放しにしない事や、転倒リスクがある方でも少しだけ開けるなど気を付けている。また、利用者には、分かりやすい言葉で伝えたり、無理強いせず時間をおいて対応したり、職員を代えて対応するなど配慮している。個人情報が入居時に説明し、居室の掲示、広報誌への掲載、電話の取り次ぎなどを行って良いか確認するなど、意向を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人の思いや希望を尋ねたり、話しかけたりし本人の意思を表現できるようにしている。	その都度本人の思いや希望を尋ねたり、話しかけたりし本人の意思を表現できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々の様子や希望に沿ってその日その日に合わせた支援ができるよう努めている。	その時々様子や希望に沿ってその日その日に合わせた支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お正月や敬老の日に、本人用の化粧品を準備したり、髪染めをしたり、おしゃれしてお出かけしたり、その人らしい生活ができるよう支援している。	お正月や敬老の日に、本人用の化粧品を準備したり、髪染めをしたり、おしゃれしてお出かけしたり、その人らしい生活ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じたおぼん拭きや片付けは行ってもらっているが、準備は行ってもらっていない。又、コロナ禍で、職員と一緒に食事はできていない。	それぞれの能力に応じたおぼん拭きや片付けは行ってもらっているが、準備は行ってもらっていない。又、コロナ禍で、職員と一緒に食事はできていない。	献立や調理は、同敷地内の施設で作られているため、介護度に応じた食事形態で提供している。重度化に伴い、一緒に家事を行う事が難しくなってきたが、できる範囲で行ってもらっている。中庭で栽培した野菜と一緒に収穫し漬物を作ったり、誕生日には家族からケーキの差し入れがあると、一緒に食べたりしている。コロナ禍で中止した食事に関する活動は少しずつ戻していきたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携を図りながら、一人ひとりの状態に合わせ食事量にこだわらず、補助食や嗜好品をあわせて提供することにより、必要なカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。	管理栄養士と連携を図りながら、一人ひとりの状態に合わせ食事量にこだわらず、補助食や嗜好品をあわせて提供することにより、必要なカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて訪問歯科を依頼し口腔内の確認も行ってもらっている。口腔内の状態に合わせて、歯ブラシやスポンジ、口腔ウエットティッシュを使って、毎食後口腔ケアを行っている。必要に応じては、訪問歯科による治療も行ってもらっている。	必要に応じて訪問歯科を依頼し口腔内の確認も行ってもらっている。口腔内の状態に合わせて、歯ブラシやスポンジ、口腔ウエットティッシュを使って、毎食後口腔ケアを行っている。必要に応じては、訪問歯科による治療も行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、その人その人に合わせて支援することで、トイレで不安を与えることなく排泄でき、なるべくオムツを使用しないよう支援している。	排泄チェック表を使用し、その人その人に合わせて支援することで、トイレで不安を与えることなく排泄でき、なるべくオムツを使用しないよう支援している。	できるだけオムツの使用を減らしたいと考えており、要介護4.5の利用者でも座位が保てればトイレ誘導を行っている。尿意などを察知することで、失禁が減り、リハビリパンツから布パンツになられた利用者もいる。家族の負担軽減に繋がるように、パットの選択などもしっかり行っている。トイレは2箇所あり、車椅子でもゆっくり利用できるような広さがあり、職員も介助しやすくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日チェックし、一人ひとりについて対応方法が決まっている。便秘傾向の方には水分摂取や運動を促している。	排便状況を毎日チェックし、一人ひとりについて対応方法が決まっている。便秘傾向の方には水分摂取や運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば対応したり体調に合わせて入浴する日を調整したりしている。トイレの失敗などがあれば、その都度入浴してもらうなど必要に応じて入浴を行っている。	希望があれば対応したり体調に合わせて入浴する日を調整したりしている。トイレの失敗などあれば、その都度入浴してもらうなど必要に応じて入浴を行っている。	入浴は午前中に行っているが、月～土曜日まで毎日準備をしている。体調や気分で入れられない場合も臨機応変に対応している。週に2回の入浴ではあるが、汚染した場合など、必要に応じていつでも入浴ができるようにしている。浴室は左右に手すりがあり、広々している。しかし重度化に伴い、浴槽に浸かって入られる利用者が少なくなっている。職員は重度化に対応できる浴槽の必要性も感じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて眠りたい時に安心できる場所で休息できるよう支援している。	一人ひとりの状況に合わせて眠りたい時に安心できる場所で休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートを活用したり、服薬管理表や熱型表、情報用紙などに記載し、一人ひとりの薬の内容を理解し、準備や介助時に日付や名前を確認し、確実に服用できるようにし、症状の変化が観察できるようにしている。	お薬ノートを活用したり、服薬管理表や熱型表、情報用紙などに記載し、一人ひとりの薬の内容を理解し、準備や介助時に日付や名前を確認し、確実に服用できるようにし、症状の変化が観察できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(洗濯物・タオルたたみやおぼん拭き)に参加したり、趣味を活かしたり、好きなものを食べたり、新型コロナウイルス感染者数をみながら、天気の良い日は散歩や外出、ガーデニング見学等を行い楽しくすごせるように支援している。	家事(洗濯物・タオルたたみやおぼん拭き)に参加したり、趣味を活かしたり、好きなものを食べたり、新型コロナウイルス感染者数をみながら、天気の良い日は散歩や外出、ガーデニング見学等を行い楽しくすごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内を自由に散歩できたり、希望があれば家族と協力し自宅へ外出したり出来るようにしているが、新型コロナウイルス感染数をみながら少しずつコロナ禍前の状態に戻している。	敷地内を自由に散歩できたり、希望があれば家族と協力し自宅へ外出したり出来るようにしているが、新型コロナウイルス感染数をみながら少しずつコロナ禍前の状態に戻している。	コロナ禍前は、初詣や定期的にドライブなど行っていたが、コロナ禍で以前のようにできなくなった。敷地内が広く、散歩ができるよう整備されており、不穩が見られたり、気分転換がしたい利用者は、敷地内の散歩を行っている。介護度が高く、外出も難しくなっているが、自由に使用できる車があり、要望があれば、送迎や移乗介助など行って、自宅へ帰ったり外出の支援をしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に確認を行っているが、現在は自己管理される方はおられずスタッフで管理している。	入居時に確認を行っているが、現在は自己管理される方はおられずスタッフで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙や贈り物が届くとお礼の電話をかけたり、家族へ手紙を出せるよう支援している。	手紙や贈り物が届くとお礼の電話をかけたり、家族へ手紙を出せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や貼り絵を飾ったり、テレビの音やカーテンでの光の調整を行い心地よく過ごせるようにしている。	季節の花や貼り絵を飾ったり、テレビの音やカーテンでの光の調整を行い心地よく過ごせるようにしている。	リビングは日差しが射しこみ明るい。居室が続く廊下の天井も高く広々としている。3つのソファにはそれぞれ利用者が寛がれており、のんびり過ごされている様子が伺える。共有スペースには、季節に応じた掲示物があり、季節感を感じてもらおうようにしている。排せ臭や汚染時の匂いは、消臭スプレーを使ったり、換気をしたりして気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ったり、気の合う方のテーブルへ自由に移動したり、促したりして落ち着いて過ごせるよう支援している。	ソファに座ったり、気の合う方のテーブルへ自由に移動したり、促したりして落ち着いて過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や面会時に家族と相談し、なじみの家具を配置し、写真や手紙、その方の作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	入居の際や面会時に家族と相談し、なじみの家具を配置し、写真や手紙、その方の作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は広く、洗面所も設置されている。出入り口は障子のようにできており温かみがある。ベッドやタンスはグループホームで準備されているが、持ち込みの制限はなく、3段のタンスや、洋服かけを持って来られているご利用者もいる。写真や色紙なども飾られており、それぞれの利用者が心地よく過ごされるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや介助バーを設置しており安全に移乗や移動出来るように工夫し、トイレや浴室など分かりやすく表示したり、日時や時計を見やすい所に設置することで理解し行動しやすいように支援している。	手すりや介助バーを設置しており安全に移乗や移動出来るように工夫し、トイレや浴室など分かりやすく表示したり、日時や時計を見やすい所に設置することで理解し行動しやすいように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。  (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。  (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。  (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない